

◆出品一覧 ※すべて長岡成光氏寄贈・京都国立博物館所蔵



3 伊集院忠棟書状(切紙、六月廿八日付) 東福寺即宗院(薩摩島津氏菩提寺)関係文書のうち
長岡成光氏寄贈・京都国立博物館

1	北郷時久書状(切紙、潤三月十一日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 天正八年(一五八〇)
2	祁答院賀雲書状(切紙、潤三月十一日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十六世紀
3	伊集院忠棟書状(切紙、六月廿八日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十七世紀
4	伊勢貞昌書状(折紙、四月十日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 天正八年(一五八〇)
5	伊勢貞昌書状(折紙、夏五月初十日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十七世紀
6	伊勢貞昌書状(折紙、十一月五日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十七世紀
7	川東時弘書状(折紙、五月廿六日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十七世紀
8	沼津承正書状(折紙、仲夏廿九日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十七世紀
9	伊勢貞昌書状(折紙、九月十四日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十七世紀
10	伊勢貞昌書状(折紙、後十月四日付)	紙本墨書き	一通 桃山時代 十七世紀
11	本田親正書状(折紙、六月四日付)	紙本墨書き	一通 江戸時代 寛永八年(一六三二)
12	島津久元書状(折紙、五月廿一日付)	紙本墨書き	一通 江戸時代 十七年(一六三二)
13	文書目録	紙本墨書き	一通 江戸時代 十七年(一六三二)
14	丸に十字紋箔絵文書箱	紙本墨書き	一通 江戸時代 十七年(一六三二)
15	朱漆塗および玳瑁塗輪花天目台	紙本墨書き	一通 江戸時代 十七年(一六三二)
木製	推定皮装漆塗	江戸時代	十九世紀
16	漆塗	江戸時代	十七世紀
17	漆絵	江戸時代	十七世紀
18	三口	桃山(江戸時代)	十七世紀
19	桃山(江戸時代)	十七世紀	十九世紀

◆関連土曜講座

2026年1月24日(土)「東福寺即宗院とその文書」

講師:羽田聰(京都国立博物館企画室長兼美術室長)

※平成知新館講堂にて午後1時30分~3時に開催。定員200名、聴講無料(ただし、当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

京都国立博物館 KYOTO NATIONAL MUSEUM



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 TEL:075-525-2473 (テレホンサービス)
<https://www.kyohaku.go.jp/> X・Instagram:@KyotoNatMuseum

特集展示 薩摩島津氏と東福寺即宗院

2025年12月16日(火)~2026年1月25日(日)

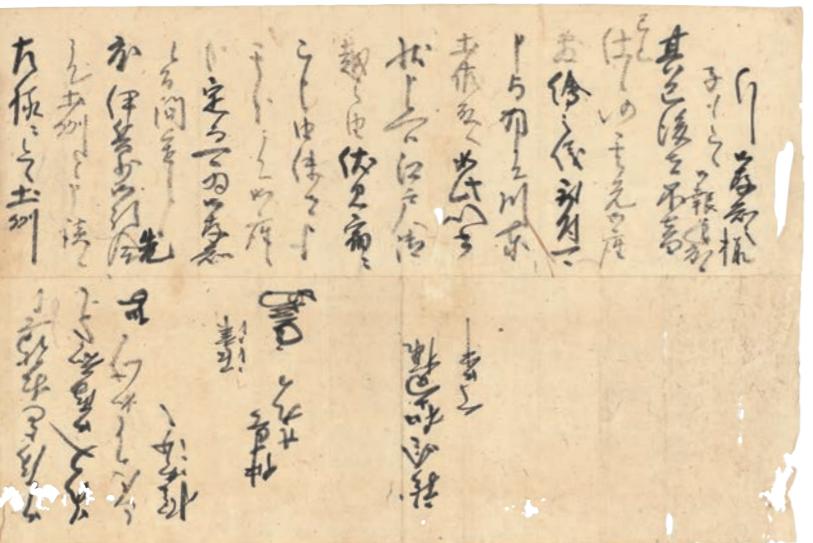
平成知新館(1F~2)

◆東福寺即宗院(薩摩島津氏菩提寺)関係文書とは
かつて、薩摩島津氏の菩提寺である東福寺即宗院に伝わった文書群です。永禄十二年(一五六九)の火災にともない、それ以前の文書は焼失したとみられ、天正八年(一五八〇)と考えられる「北郷時久書状」(1)や「祁答院賀雲書状」(2)を上限として、嘉永四年(一八五二)の「島津斉彬入部参詣入用帳」を下限とする八十八通からなります。表装がなされておらず、ほぼ当初の状態を保つため、内容だけではなく形態の面でも重要な情報を提供してくれます。

博物館で作品に接していると、いつも「よくぞ遺してくれた」と思わずにはいられません。なにしろ、彼らは数百年、場合によつては千年以上の時を経て伝えられたわけですから。この特集展示の主人公、東福寺即宗院にまつわる文化財にも似たような感覚を抱きました。即宗院は、東福寺の山内に数多く存在する塔頭寺院の一つで、現存最古の方丈が国宝指定をうけていることで有名な龍吟庵のすぐ東に位置します。島津氏久(一三三八~八七)の菩提を弔うため、剛中玄柔(東福寺五十四世)を開基にむかえ、嘉慶元年(一三八七)に創建されたといいます。永禄十二年(一五六九)には火災で焼失するものの、島津家久(忠恒、一五七六~一六三八)の尽力により、慶長十八年(一六一三)に再興を遂げました。

このように、島津氏の菩提寺として歳月を重ねるなかで、即宗院に集積された寺宝の多くは、残念ながら明治維新後の混乱期に寺外へ流出したようです。文化財はあるべきところを離れると、時間が経つにしたがい、本来の秩序や規模は失われますが、令和四年(二〇二二)度、当館は工芸品四点にくわえ、八十八通もの古文書をご寄贈いただきました。確かに、二通を除けば、いずれも新出と考えられるから驚きです。

そこで、今回の展示では、およそ百五十年ぶりの奇跡の再会を記念し、桃山時代から幕末にいたる古文書のなかでも中核をなす、即宗院の再建に関わるものを中心紹介いたします。



8 沼津承正書状(折紙、仲夏廿九日付) 東福寺即宗院(薩摩島津氏菩提寺)関係文書のうち
長岡成光氏寄贈・京都国立博物館

祝文

1 北郷時久書状(切紙、潤三月十一日付)

就即宗庵御再興、「惠堅首座御下着候、早々」
彼儀可被申調之處、向州「表防戦、依繁多延
引、非本意存候、委曲自「鹿児嶋可被申達候、
仍去秋者」、免筆五対・同関小刀二」拝領候、從
是茂段子壱端・「沈香一斤令進上候、補御」祝礼
計候、可得尊意候、「恐惶敬白、

潤三月十一日 一雲(花押)

龍吟庵 参侍者御中

(封紙ウハ書)

龍吟庵 参侍者御中

北郷前左衛門入道

一雲

